外貨換算会計

外貨建取引

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　どのレートで換算するか考え方を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「為替差損益」勘定（営業外収益、または、営業外費用）

（１）外貨換算

外貨換算とは、外貨で表示されている金額（外貨建金額）を円貨の金額に換えることをいい、次の計算式で行います。

為替相場（為替レート）×　外貨建金額　＝　円貨による金額

為替相場（為替レート）とは、２国間における通貨の交換比率です。１ドルが100円ですと、100円で１ドルと交換できることを意味します。

2級では、外貨建取引のうち仕入や売上などの**営業取引**に限って出題されます。

外貨換算会計で使用する為替相場は、以下となります。

- 取引発生時の為替相場：ヒストリカル・レート（HR）
- 決算日の為替相場：カレント・レート（CR）

（２）取引発生時の会計処理

外貨建取引は、取引発生時の外貨建金額を「**取引発生時の為替相場**」で換算します。

例題　**1月10日に、アメリカの得意先に商品100ドルを輸出し、代金は掛とした。代金の決済は3月9日であり、1月10日の為替相場は１ドル100円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　掛　　金	**10,000**	**売　　　　上**	**10,000**

売掛金：取引発生時の為替相場100円/ドル×100ドル＝10,000

（３）決済時の会計処理

外貨建金銭債権債務の決済（外国通貨の円転換を含む）による収入額や支出額は「**決済時の為替相場**」で換算し、帳簿価額（取引発生時の換算額）との差額は「**為替差損益**」勘定で処理します。

為替差損益は原則として、**純額**で損益計算書の「**営業外収益**」又は「**営業外費用**」に表示します。

例題　**3月9日に、アメリカの得意先に対する売掛金100ドル(取引発生時の為替相場は１ドル100円)の決済として、100ドルの送金があり、銀行で円貨に両替して当座預金に預け入れた。3月9日の為替相場は１ドル110円であった。**

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
当　座　預　金	**11,000**	**売　　掛　　金**	**10,000**
		為　替　差　損　益	**1,000**

当座預金：取引発生時（決済時）の為替相場110円/ドル×100ドル＝11,000
売 掛 金：取引発生時の為替相場100円/ドル×100ドル＝10,000
為替差損益：(110円/ドル－100円/ドル)×100ドル＝1,000

例題

① 1月10日に、アメリカの仕入先から商品200ドルを輸入し、代金は掛とした。代金の決済は3月9日であり、1月10日の為替相場は１ドル100円であった。

② 3月9日に、アメリカの仕入先に対する買掛金200ドル(取引発生時の為替相場は１ドル100円)の決済として、200ドルを普通預金から送金した。3月9日の為替相場は１ドル110円であった。

① 1月10日

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**20,000**	**買掛金**	**20,000**

買掛金：取引発生時の為替相場100円/ドル×200ドル＝20,000

② 3月9日

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**20,000**	**普通預金**	**22,000**
為替差損益	**2,000**		

普通預金：取引発生時（決済時）の為替相場110円/ドル×200ドル＝22,000

為替差損益：(110円/ドル－100円/ドル)×200ドル＝2,000

（４）外貨による前払金・前受金の会計処理

① 前払金・前受金発生時

外貨による前払金・前受金は「**支払時又は受取時の為替相場**」で換算します。

② 前払金・前受金充当時（仕入・売上時）

外貨建取引のうち、前払金・前受金は「支払時又は受取時の為替相場」で換算した金額を充当し、残りの金額は「**取引発生時の為替相場**」で換算します。

例題

① アメリカの仕入先から商品100ドルを輸入することになり、2月10日に手付金として30ドルを現金で支払った。2月10日の為替相場は１ドル100円であった。

② 2月20日に、アメリカの仕入先から商品100ドルを輸入し、手付金30ドル（手付金支払時の為替相場は１ドル100円）を控除した残額70ドルは掛とした。2月20日の為替相場は１ドル110円であった。

① 2月10日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
前　　払　　金	**3,000**	**現　　　　金**	**3,000**

前払金：取引発生時（支払時）の為替相場100円/ドル×30ドル＝3,000

② 2月20日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**10,700**	**前　　払　　金**	**3,000**
		買　　掛　　金	**7,700**

買掛金：取引発生時の為替相場110円/ドル×70ドル＝7,700

仕　入：前払金3,000＋買掛金7,700＝10,700

（注）前払金・前受金がある場合、仕入・売上はその全額が取引日の為替相場で換算されないので、注意して下さい。

（5）決算時の会計処理

外貨建資産及び負債のうち、貨幣項目については決算において「**決算日の為替相場**」で換算替えを行い、帳簿価額との差額は「**為替差損益**」勘定で処理します。

換算替えが必要な貨幣項目とは、外貨建の現金、預金、売掛金、受取手形、買掛金、支払手形などの現金預金または現金預金で決済されるものをいいます。なお、商品、前払金・前受金、固定資産などの非貨幣項目は通常、換算替えは行いません。

例題　**決算日において、金庫にアメリカドル50ドル(取得時の為替相場は１ドル105円)があった。決算日の為替相場は１ドル110円であった。**

現金の決算整理前の残高は5,250（＝105円/ドル×50ドル）です。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現　　　　金	**250**	**為　替　差　損　益**	**250**

現金：(決算日の為替相場110円/ドル－105円/ドル)×50ドル＝250

決算の換算替えにより、現金の決算整理後の残高は5,500（＝決算日の為替相場110円/ドル×50ドル）となります。

例題　**買掛金100ドル(取引発生時の為替相場は１ドル100円)はアメリカの仕入先に対するものであった。決算日の為替相場は１ドル110円であった。**

買掛金の決算整理前の残高は10,000（＝100円/ドル×100ドル）です。

借方科目	金額	貸方科目	金額
為　替　差　損　益	**1,000**	**買　　掛　　金**	**1,000**

買掛金：(決算日の為替相場110円/ドル－100円/ドル)×100ドル＝1,000

決算の換算替えにより、買掛金の決算整理後の残高は11,000（＝決算日の為替相場110円/ドル×100ドル）となります。

例題　**買掛金100ドル(取引発生時の為替相場は１ドル100円)はアメリカの仕入先に対するものであった。決算日の為替相場は１ドル95円であった。**

買掛金の決算整理前の残高は10,000（＝100円/ドル×100ドル）です。

借方科目	金額	貸方科目	金額
買　　掛　　金	**500**	**為　替　差　損　益**	**500**

買掛金：(100円/ドル－決算日の為替相場95円/ドル)×100ドル＝500

決算の換算替えにより、買掛金の決算整理後の残高は9,500（＝決算日の為替相場95円/ドル×100ドル）となります。

為替予約

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

①　どのレートで換算するか考え方を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「為替差損益」勘定（営業外収益、または、営業外費用）

（1）為替予約

為替予約とは、将来の外貨による決済に備えて、金融機関等と決済時における為替相場を約定することで、将来の決済による円価額を確定する契約をいいます。

例えば、3ヶ月後に外貨建の買掛金の決済がある場合、将来の決済時における為替相場によって円ベースでの支払額が大きく変動する可能性があります。そこで、あらかじめ金融機関等と為替予約の契約をすれば、決済時の円貨額を確定できるので、為替相場の変動リスクを回避することができます。

なお、為替予約による将来における通貨の交換比率を「**先物為替相場（予約レート）**」といいます。また、先物為替相場に対して、通常の為替相場である通貨の交換比率を「**直物為替相場（直物レート）**」といいます。

（2）為替予約の会計処理

2級では、為替予約について、**営業取引**における**振当処理**が出題されます。

振当処理とは、為替予約を外貨建取引又は外貨建金銭債権債務等に振り当てて、「**予約時の先物為替相場**」で換算する方法です。

（3）取引発生後に為替予約を付した場合

外貨建金銭債権債務等を「**予約時の先物為替相場**」で換算替えを行い、帳簿価額（発生時の換算額）との差額は「**為替差損益**」勘定で処理します。

先物為替相場で換算された外貨建金銭債権債務等は将来の決済額が確定しているので、決算日に残高が生じていても、決算日の為替相場による換算替えは行いません。また、将来の決済額が確定しているので、決済時に為替差損益は生じません。

なお、取引発生時から為替予約時までに生じている直物為替相場の変動による額を「**直々差額**（じきじきさがく）」といい、予約時の直物為替相場と先物為替相場の差から生じる額を「**直先差額**（じきさきさがく）」といいます。厳密には、直先差額は予約日の属する期から決済日の属する期までの期間にわたり配分して各期の損益として処理するのが原則ですが、2級ではこの厳密な処理は問われません。

例題

①　1月10日に、アメリカの仕入先から商品100ドルを輸入し、代金は掛とした。代金の決済は4月9日であり、1月10日の直物為替相場は１ドル100円であった。

②　2月10日に、買掛金100ドルの円貨による支払額を固定化するために取引銀行と1ドルあたり102円で購入する為替予約契約を締結した。なお、振当処理を採用するが、直先差額は予約日の属する期の損益として処理する。2月10日の直物為替相場は１ドル101円であった。

③　決算日は3月31日である。3月31日の直物為替相場は１ドル98円であった。

④　4月9日になり、為替予約契約にもとづき、仕入先に100ドルを送金し、当座預金から決済した。4月9日の直物為替相場は１ドル103円であった。

①　1月10日

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**10,000**	**買掛金**	**10,000**

買掛金：100円/ドル×100ドル＝10,000

②　2月10日

借方科目	金額	貸方科目	金額
為替差損益	**200**	**買掛金**	**200**

買掛金：(先物為替相場102円/ドル－100円/ドル)×100ドル＝200

換算替えにより、買掛金の帳簿価額は10,200（＝先物為替相場102円/ドル×100ドル）となります。

③　3月31日（決算日）

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕訳なし			

④　4月9日

借方科目	金額	貸方科目	金額
買掛金	**10,200**	**当座預金**	**10,200**

買掛金：先物為替相場102円/ドル×100ドル＝10,200

（４）取引発生時までに為替予約を付した場合

営業取引について、取引発生時までに為替予約の契約を締結している場合には、実務上の煩雑性を考慮して、外貨建取引及び外貨建金銭債権債務等を「**予約時の先物為替相場**」で換算することができます。

この場合、実質的に円貨建取引と同様ですので、取引時及び決済時に為替差損益は生じません。また、先物為替相場で換算された外貨建金銭債権債務等は将来の決済額が確定しているので、決算日に残高が生じていても、決算日の為替相場による換算替えは行いません。

なお、厳密には、予約時の直物為替相場と先物為替相場の差から生じる額（直先差額）を、期間配分するのが原則ですが、2級ではこの厳密な処理は問われません。

例題

①　1月10日に、アメリカの仕入先から商品100ドルを輸入し、代金は掛とした。当該輸入と同時に、買掛金100ドルの円貨による支払額を固定化するために取引銀行と1ドルあたり102円で購入する為替予約契約を締結した。代金の決済は4月9日であり、1月10日の直物為替相場は１ドル100円であった。なお、振当処理を採用するが、外貨建取引及び外貨建金銭債務は先物為替相場で換算する。

②　決算日は3月31日である。3月31日の直物為替相場は１ドル98円であった。

③　4月9日になり、為替予約契約にもとづき、仕入先に100ドルを送金し、当座預金から決済した。4月9日の直物為替相場は１ドル103円であった。

①　1月10日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　　　　入	**10,200**	**買　　掛　　金**	**10,200**

買掛金：先物為替相場102円/ドル×100ドル＝10,200

②　3月31日（決算日）

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　訳　な　し			

③　4月9日

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
買　　掛　　金	**10,200**	**当　座　預　金**	**10,200**

買掛金：先物為替相場102円/ドル×100ドル＝10,200

外貨換算会計　問題

問題1　以下の資料にもとづいて、決算整理後残高試算表を作成しなさい。なお、決算日は3月31日であり、決算日の直物為替相場は1ドル105円であった。

［資料１］決算整理前残高試算表（一部）

決算整理前残高試算表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
80,000	現　　　　金	
211,000	当　座　預　金	
282,000	売　　掛　　金	
79,000	繰　越　商　品	
	買　　掛　　金	191,000
	前　　受　　金	40,000
879,000	仕　　　　入	
	為　替　差　損　益	2,000

［資料２］未処理事項

① 3月1日に取引銀行と買掛金支払いのために、500ドルを1ドル108円で購入する為替予約を結んだ。なお、当該買掛金は取引時における1ドル106円で換算されている。為替予約について振当処理を適用するが、取引時の為替相場による円換算額と為替予約による円換算額との差額はすべて当期の損益として処理する。

② アメリカの得意先から来月の輸出取引に関する前受金として200ドルが当座預金に振り込まれていた。なお、入金時の為替相場は1ドル104円であった。

［資料３］決算整理事項

① 現金には150ドルが含まれている。なお、当該ドルは1ドル120円で換算されている。

② 売掛金期末残高には外貨建で生じた400ドルが含まれている。なお、当該外貨建売掛金は1ドル104円で換算されている。

③ 期末商品は、次のとおりである。

　国内仕入商品　60,000円

　海外仕入商品　300ドル（取引時の為替相場は1ドル106円）

外貨換算会計　答案用紙

問題1

決算整理後残高試算表（一部）

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
	現　　　　　金	
	当　座　預　金	
	売　　掛　　金	
	繰　越　商　品	
	買　　掛　　金	
	前　　受　　金	
	仕　　　　　入	
	為　替　差　損　益	

外貨換算会計　解答解説

問題1　解答

決算整理後残高試算表（一部）

借　　方	勘 定 科 目	貸　　方
77,750	現　　　　金	
231,800	当　座　預　金	
282,400	売　　掛　　金	
91,800	繰　越　商　品	
	買　　掛　　金	192,000
	前　　受　　金	60,800
866,200	仕　　　　入	
850	為　替　差　損　益	

問題1　**解説**

１．未処理事項

①　為替予約

振当処理を適用する場合、買掛金は予約日の先物為替相場（為替予約）で換算されます。また、将来の支払額が確定しましたので、決算において換算替えは行いません。

借方科目	金額	貸方科目	金額
為替差損益	**1,000**	**買掛金**	**1,000**

買掛金：(為替予約108円－106円)×500ドル＝1,000

②　前受金

前受金は前受金受取時の為替相場で換算します。なお、前受金は非貨幣項目ですので、決算において換算替えは行いません。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**20,800**	**前受金**	**20,800**

前受金：104円×200ドル＝20,800

２．決算整理事項

①　現金

現金は貨幣項目ですので、決算において決算日の為替相場で換算替えを行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
為替差損益	**2,250**	**現金**	**2,250**

現金：(120円－決算日の為替相場105円)×150ドル＝2,250

②　売掛金

売掛金は貨幣項目ですので、決算において決算日の為替相場で換算替えを行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	**400**	**為替差損益**	**400**

売掛金：(決算日の為替相場105円－104円)×400ドル＝400

③　商品

商品は非貨幣項目ですので、決算において換算替えは行いません。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	**79,000**	**繰越商品**	**79,000**
繰越商品	**91,800**	**仕入**	**91,800**

繰越商品（期末商品）：国内仕入商品60,000

＋海外仕入商品300ドル×106円＝91,800